

# 大腸癌の家族歴と大腸内視鏡検査について

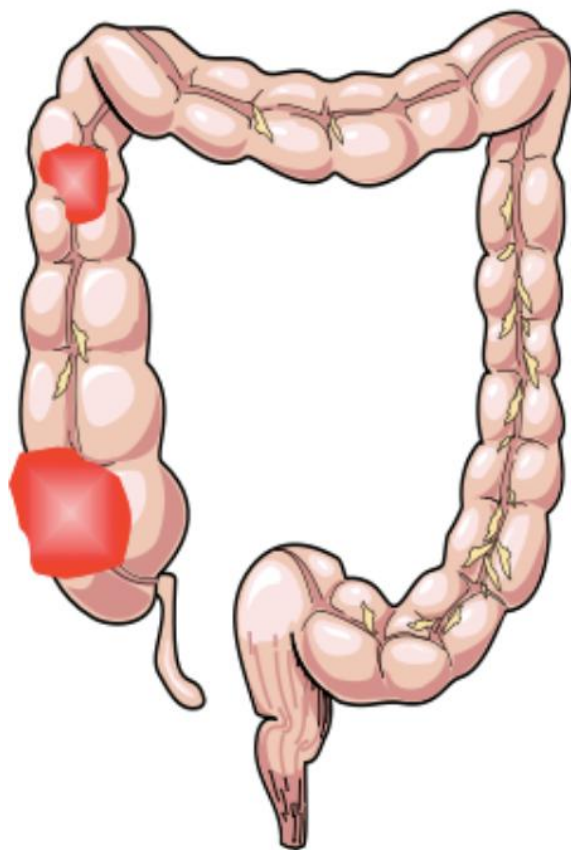
米国・ユタ大学の Samadder NJ 氏らは、大腸内視鏡検査後の大腸がん発生率低下について、通常は10年間持続するのに対して、大腸癌患者の第一度近親者（本人の父母、兄弟姉妹、子供）では、5年間と短いことが明らかとなり、研究結果が「The American Journal of Gastroenterology」誌に掲載されました。



大腸内視鏡検査で癌陰性と判定された  
131,349 人の大腸がん発生率は、検査後 1 年時  
点で 0.15、2~5 年時点で 0.26、5~6 年時点  
で 0.33、7~10 年時点で 0.60 でありました。



一方、大腸癌患者の第一度近親者における大腸がん発生率の低下は、大腸内視鏡検査後5年までにとどまりました。特に、近位大腸（盲腸、上行結腸、横行結腸）において癌の発生が高くなる傾向にありました。



大腸がんの家族歴がある人は定期的に  
大腸内視鏡検査を受けましょう。

